



2018年度 杏林大学 一般入学試験

I

ア : 1 イ : 5 ウ : 5 エオ : -4 カ : 5 $\frac{\text{キク}}{\text{ケコ}} : \frac{-4}{25}$

サシ : -4 ス : 9 セ : 5 $\frac{\text{ソタ}}{\text{チ}} : \frac{-1}{2}$ $\frac{\text{ツ}}{\text{テト}} : \frac{5}{16}$

II

ア $\sqrt{\text{イ}} : 2\sqrt{3}$ ウ $\sqrt{\text{エ}} : 2\sqrt{6}$ オ $\sqrt{\text{カ}} : -\sqrt{3}$ キ $\sqrt{\text{ク}} : 2\sqrt{6}$ $\frac{\text{ケコ}}{\text{サ}} : \frac{-1}{3}$ シス : 18 セ : 6

$\frac{\text{ソ}}{\text{タ}} : \frac{1}{2}$ $\frac{\text{チツ}}{\text{テ}} \sqrt{\text{ト}} : \frac{27}{2}\sqrt{3}$ ナ : 3

III

$\frac{\text{ア}-\sqrt{\text{イウ}}}{\text{エ}} : \frac{3-\sqrt{57}}{2}$ オカ : -1 キ : 0 ク : 4 $\frac{\text{ケコ}}{\text{サ}} : \frac{25}{4}$ シ : 5 $\frac{\text{ス}}{\text{セ}} : \frac{1}{2}$

IV

ア : 0 イウ : -1 エオ : -1 カ : 0 キク : -2 ケ : 3 $\frac{\text{コ}}{\text{サ}} : \frac{1}{4}$ $\frac{\text{シ}}{\text{ス}} : \frac{2}{9}$



2018年度 杏林大学 一般入学試験

【 講 評 】

例年に比べて、若干だが易化したと考えられる。本年度は、IとⅢの(a)(b)、Ⅳを確実に得点すべきである。Ⅱは、図形問題の演習量によって、得意不得意があるので、差がつきやすいであろう。全体として7割程度の得点を目指したい。

I 連立漸化式で定義された数列の極限	難易度：やや易
連立漸化式を3項間漸化式に変形して解く問題。各数列の一般項を求めて計算すれば良い。計算量も多くないので本問は落とせない。	
II 空間座標	難易度：標準
空間ベクトルによる解法か、幾何的な解法で迷うところであるが、手際よく処理することが大切である。受験生が苦手とするテーマなので、差がついたであろう。	
III 関数の極値	難易度：標準
(a)(b)は、基本的な問題である。(c)の極大点の個数を求める問題については、少々難しい。グラフを用いて、符号変化を適切に判断することが大切である。この設問に関しては試験時間を考慮すると、優先順位は低いであろう。	
IV 微分・積分	難易度：標準
関数の値域、接線の立式、本数問題、面積、体積、極限といった微積分の総合力が試される問題であるが、基本的、標準的な問題であり、計算量も多くないので、確実に取りたい問題である。	

最終合格へのラストスパート!!!!!!

医学部後期入試対策講座

埼玉医科大・金沢医科大・昭和大・近畿大・藤田保健医・日本医科大
大阪医科大・関西医科大 申し込み受付中

イシャ ニナロウ

お問い合わせは ☎ 0120-148-276